2011年6月1日発行

クラス担任のためのCareer Guidance

［キャリアガイダンス 特別編集］

RECRUIT

2011 >> VOL.7

「教科の成績だけで決めない文理選択」

文理選択では、科目の得意不得意が決め手になることも多い。今号では、少し異なる視点を生徒に与えられるよう、学問の新潮流や脳科学の視点、生き方にまつわる名言を紹介する。

学問の最先端は文・理に分けられない!? 東大の新学科に注目！

複雑化する社会で問題を解決する力を養う

学部学科についてよく調べず友達の影響で選択をしてしまう、苦手科目の消去法で決めてしまう、決めるとほかの科目の学習が疎かになる…　そんな生徒に伝えたい情報のひとつは学問の新しい動きだ。大学のなかには、文理融合型の学部・学科をもつ学校もある。代表例は、慶應義塾大学環境情報学部や国際基督教大学など。最近では青山学院大学が社会情報学部を新設した。

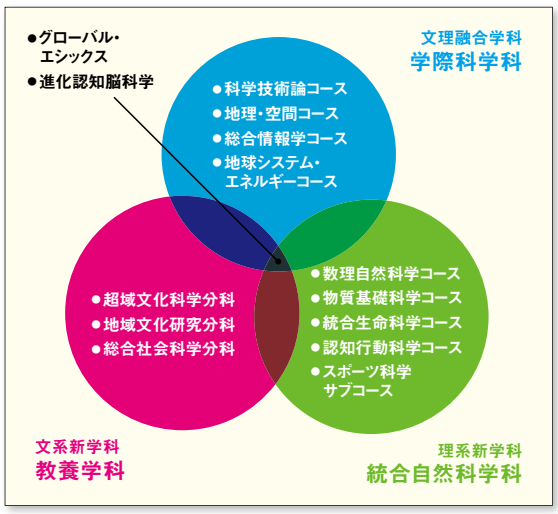
さらに2013年度には、東京大学教養学部が3・4年次の後期課程を再編する。文理融合の新学科 学際科学科を設けるほか、文系学科と理系学科でも、コースや分科の垣根を低くして、複数の分野を横断する研究を可能にする。

新学科設立のきっかけの一つは学生の要望だ。自分の専攻と別に副専攻をとりたいという声があがっていた。また、背景には社会の複雑化もある。

「社会や学問の世界で生じる問題は複雑になっていて、既存の方法では解決できないことが多くあります。そこで必要になるのが従来と違う考え方。一つの専門だけではなく、引き出しをたくさん持っているほうが有利です。この引き出しは、社会に出てからも役に立つはずです」（文系新学科 教養学科の斎藤文子教授）

「最先端の研究は、文理を分けられない領域に広がっていることも再編の一因。例えば今回の改組では、複雑化した国際社会の新たな倫理の枠組みを考える『グローバル・エシックス』や、最先端の学問領域『進化認知脳科学』などの学際的な科目群を、3つの学科が重なる領域に置いています」（学際科学科の松原宏教授）

■東京大学教養学部の新学科



左から、松原宏教授、斎藤文子教授、遠藤泰樹教授

学生の迷いに対応する手厚い情報提供体制

このような学問のあり方においては、どのような学生が求められるのだろうか。

「いろんなことに興味をもってもらうのが一番。理系のなかにも、物理学の手法を用いた生物物理や、数理的に生命現象を解明する分野などがあり、多様性に富んでいます」（新理系学科 統合自然科学科の遠藤泰樹教授）。「教員と学生の対話から新しいものを作り出そうとする流れもあるので、人と議論する力も大切ですね」（松原教授）。

選択肢の多さは学生の迷いにもつながる。同学部では、進学情報センターを設置し、進学相談を受ける専門のスタッフを置いたり、学科の教授が積極的に学生の相談に応じるなど、情報提供にも力を注いでいる。

文理融合型の学部・学科は、最初に例を挙げたとおり、東京大学だけのものではない。広い視野で学びをとらえると、新しい道がみえるかもしれない。

現役の臨床脳外科医に教わる 脳に効く進路選択

不得意に挑戦しないと脳の成長が止まる!?

世間では「左脳型の人は理論的で、右脳型の人は直感的」などと言う。脳にタイプがあるなら、文理選択にも応用できないだろうか。都立駒込病院脳神経外科部長の篠浦伸禎先生に聞いた。

篠浦先生は、手術中に患者を起こして刺激に対する反応をチェックしながら手術を進める、脳の「覚醒下手術」で多大な実績をもつ。その経験から「脳機能には左右差がある」と確信している。

「左脳は、言葉を使って記憶を整理し、過去から未来に向かって物事の質を上げるための脳、右脳は、感情や空間を統合することにより現実に対応するための脳ではないかと、私は見ています。だから、大雑把に言えば、左脳をよく使う人は理系、右脳を使う人は文系に向いていると言えなくもありません」

しかし、あえて苦手なほうへ進んでもいいと篠浦先生は言う。使わないほうの脳を使うことで脳が活性化するからだ。

「『自分はこんなものだ』とあきらめて、新しいことに挑戦しなくなると、脳の使い方が偏り、使わないほうの脳が停止して、仕事や勉強がうまくいかなくなります。脳の血流も悪くなり病気にもかかりやすくなる。右脳型なら本を読み論理性を身につける、左脳型なら人間関係を広げるなど、不得意を補うことも大切です」

「志」をもつことが脳を成長させる

また、脳全体を成長させるためには、「自我」が重要だというのが篠浦先生の見解だ。脳の血流を調べると、どんな時にどの部分が活性化するかがわかるが、実は脳の中心にある、帯状回とその周辺は、何も刺激がない時に活性化している。外部からの刺激がないことで活性化するこの部位こそ自我である。この自我を強くするために志をもつことが脳の成長を左右すると篠浦先生は説明する。

実際、自分はどこに向かうべきなのか。それをみつけた子どもは、急に成績が伸びるという。理想は生徒が自分の体験から志をみつけていくことだが、小説や映画などを見せて感想を言わせるような授業もいいきっかけになる。

『人に向かわず天に向かえ
――脳外科最前線の臨床でわかった「人間学」の効用』
篠浦伸禎／小学館101新書

教員ライフ応援メールマガジン

キャリアガイダンス＠メール 新規会員募集！

月2回発行（第2・第4水曜日）無料

キャリアガイダンスから定期的にお届けするお知らせで、楽しくて役に立つ情報をゲットしてください。
新規登録につきましては小社の貴校担当者にお問い合わせいただくか、『キャリアガイダンスnet』からお申し込みください。

●メールマガジン会員になるとこんな情報が届きます

研鑽&スキルアップのための情報
教育関連イベント情報
進路指導・キャリア教育に役立つコンテンツ／ブックガイド

『キャリアガイダンス.net』更新情報のお知らせ
『キャリアガイダンス』電子ブック
指導に使えるデータ&ワークシート

『クラス担任のためのキャリアガイダンス』掲載ワークシート

『キャリアガイダンス』連動のネットオリジナル記事
著名人インタビュー
「希望の道標」ロングバージョン
「とれたてData Clip」拡大バージョン

教員ライフを応援
毎月届く 先生★占い／プレゼント

http://souken.shingakunet.com/career_g/

生徒の心に響く名言集

先が見えなくて焦る時、
心を支えてくれる言葉を集めました。

己の立てるところを深く掘れ、そこには必ず泉あらむ。
――高山樗牛『樗牛全集』

明日死ぬように生きなさい。永遠に生きるように学びなさい。
――マハトマ・ガンジー

わたしたちはここで学んでいることを通じて、つぎの新しい世界を選びとるのだ。もしここで何も学びとることがなかったなら、次の世界もここと同じことになる。
――リチャード・バック『かもめのジョナサン』

ただまっすぐに1本の道を進むは美しい。じゃが、普通はそうもいかぬもの。迷い、間違い、回り道もする。それでええ。振り返ってごらん。あっちにぶつかり、こっちにぶつかり、迷いに迷ったそなたの道は、きっと誰よりも広がっとる。
――井上雄彦『バガボンド』31巻

たどりつきたいから強くなるんだ。完璧じゃなくても、一度心に決めてもやっぱり心揺れても、決断が正しくなくても、迷っても、それでも、進むしかない。
――河原和音『青空エール』5巻

「やりたいこと」などすぐに思い浮かばなくてもいいのです。やりたいことがなくても、「やりたくないこと」ならあるでしょう。強みが思いつかなくても、「弱点」は見つかるでしょう。（中略）その全部が自分であると認めて動き始めれば、自分が何をしたいのかが次第に見えてくるでしょう。
――哲学者・中島義道『キャリアガイダンス』No.15より